

歴史散歩

文——多古町郷土史の会

◆第19話◆



三輪大神本殿



見事な彫刻が残る本殿後部



参道入口の灯ろう(石と手洗い(左))

三輪大神

染井二五番地に祀られている旧染井村の鎮守で、別称「山王様」——歯痛を治す神——ともいわれています。

本殿は、名工とうたわれた大矢佐兵衛により、嘉永六年(一八五三)に建てられたもので、その彫刻は実に見事なものです。これまで幾度かの改修を経てきましたが、今年6月にも地元染井区により一部改修が行われたばかりです。

参道入口の灯ろうと手洗いは慶応二年(一八六六)に、参道中央の鳥居は大正十年(一九二二)に、それぞれ近隣住民などから寄進されたもので、その閑静なたたずまいは、奥に建つ本殿をより一層引き立たせています。

小井戸の滝

染井二五番地二にある町内唯一の天然の滝です。

その昔この辺りは、現在の多古妙光寺の境内で、この滝も庭園の一部であったといわれています。

石で造られた竜の口から流れ落ちる滝の高さは二メートルほどで、水量もわずかではありませんが、どれほど日照りの年でも涸れることがなかったとのこと。

また、この滝水を飲み、この水で炊いたご飯を食べると、母乳が豊富になる——ともいわれ、かつては遠近を問わず、水を求めてこの滝を訪れる人が後を絶たなかったとも伝えられています。



竜の口から流れ落ちる滝



小井戸の滝全景



「病気のイ、ロ、ハ」

皆さん、お体の具合はいかがですか？今回は、お医者さんへのかかり方を中心にお話しします。

まず、外来にお越しいただいたとき、あるいは受診希望のお電話をいただいたときから、皆さんの病気の「イ」が始まっています。

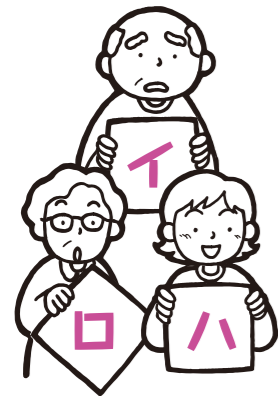
「今、どんな具合ですか？」
「今、何がつらいですか？」

医師や看護師は、患者さんやご家族からの情報をもとに、頭の中でいろいろな病気を想定していきまますので、情報には正確性が必要です。患者さんの具合は、患者さんにしかわかりませんので「イ」の主導権は皆さんが握っているのです。時々お電話で状況を確認させていただいていると「そんなことはどうでもいいから、診てもらえるのか？どうなんだ？」とおっしゃる方がいます。お話を詳しく伺うのは、この「イ」が当院で対応できるか否かの判断材料になるからです。ご連絡をくださる前に、落ち着いて「イ」の整理をしておいてください。



「からだワンポイント」
どうかこの「イ、ロ、ハ」を上手に活用して、効果的な外来診療にご協力ください。

次の「ロ」は、普段飲んでいるお薬のことです。さまざまな病気がある現在、それを治療するお薬も多種多様です。他の病院や開業医に何の病気がかかっ



文／国保多古中央病院 外来

追跡レポート！——この職業・この人たちの24時間

8月8日は『屋根の日』
瓦屋さんの一日
紹介者：前橋隆男さん(本町)

祖父の代から受け継いできた瓦屋は、今年で創業90年を迎えます。地元多古町や近隣市町村の新築などの瓦葺きや、点検・修理などを行っています。

朝は7時半までに、その日の打ち合わせを行い、8時前には現場に入ります。事前に施主さん、大工さんらと打ち合わせを行い、工事施工図を作成し瓦の枚数などを割り出しておきます。現場に着くと、瓦揚機で瓦を屋根の上へ。そして屋根の大部分を占める平部や、軒・袖・棟部などに瓦を葺いていきます。続いて、屋根の頂上部に丸瓦や鬼瓦などの取り付けを行います。瓦は銅線や石灰に麻づたや海草のりを混ぜた漆喰で固定します。漆喰

の調査は、熟練した職人が長年培った経験から、その日の天気に合わせて配合を変化させています。作業の進み具合にもよりますが、夕方5時半ぐらいには現場での作業を終えます。



瓦は日本の風土に合う優れた屋根材です。見た目美しく遮熱・耐久性も有り、メンテナンスコストも抑えることができます。さらに業界では、軽量化や接合部分を改良した防災瓦などを開発したり、地震や台風などの災害に備え『ガイドライン工法』を確立させたりして、災害に強い屋根作りに取り組んでいるので、私たちも毎日が勉強です。間もなく台風シーズン到来。お宅の屋根は大丈夫ですか？雨漏りや漆喰のひび割れがないか、年に一度は点検してみてください。



取材協力：(有)前橋瓦商店